



基本情報

作成年月日	令和7年1月
法人理念	和顔愛語
支援方針	<ul style="list-style-type: none">○小集団の中で、お子さんが「やってみたい、やれるかも」と思えるような活動で練習する機会を提供する○集団場面で現れる行動が「どうしてそうなりやすいのか？」を、小集団活動内で観察し、保護者の方と情報を共有する○保育所や幼稚園、こども園と連携してお子さんの課題をとらえる
営業時間	8：30～17：30
送迎実施の有無	有



本人支援

～健康・生活～



- お子さんの表情や行動のちょっとした変化から、健康状態のチェックを行い、お子さんの特性に配慮し、小さなサインから心身の異変に気付けるようきめ細やかな観察を行う。
- 年齢や成長発達に合わせてイラストや文字を用いた活動スケジュールを活用。(いつ、どこで、何をするかわかる)
- 身支度や手洗い排泄など、お子さんに応じて手順ボードやシンボルマークを使用し、自立的にできることを増やしていく。
- 基本的な生活リズムを身に付けられるよう、保護者や関係機関と情報を共有する。家庭での生活についても助言を行う。

本人支援 ～運動・感覚～

- お子さんが「一人で出来た」と思えるような課題を準備し、提供の仕方や分量の調整をする。
例：道具や材料を手順ごとに分けて提示する
- 周囲の環境を整えた中で、走る、跳ぶ、押す、引っ張るなど、様々な動きを行い身体を動かす楽しさや喜びを味わえる活動内容の設定。
- 短い時間、姿勢を保持しながら相手の話に注目できる機会を増やしていく。
(周囲の刺激を調整するために、必要に応じてパーテーションを用いる)



本人支援 ～認知・行動～

- ・文字や数に触れる遊び（例：かるた・トランプ・かくれんぼなど）を通してお子さんの興味関心に繋げる。日常生活の中でも活用できるように支援する。
- ・人数や場所、物の数などを工夫した小集団活動で、自他の区別、状況を把握する力を育む。
- ・自分の気持ちや思いを適切な言葉で相手に伝える機会を設ける。



本人支援

～言語・コミュニケーション～

- 遊びの中で友だちとのやりとりにずれが生じた場合、大人が具体的にやり取りの仕方を伝える。
例：玩具の貸し借り場面、玩具の共有、遊びの誘い方、断り方など
- 伝言ゲームやしりとりなど、言葉で表現する楽しさを知る。

かしきりのことば



本人支援 ～人間関係・社会性～

- ・小集団で様々な遊びのルールを段階的に理解し、「友だちと遊ぶことが楽しい」と思えるような経験を積む。
- ・「一緒にしたい」気持ちが育つことで、みんなの中でペースを合わせたり物やルールを共有できる力を育む。
- ・家族以外の大人や友だちと、安定した関係を築く。



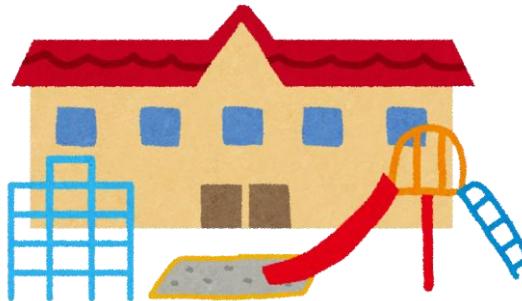
家族支援

- ・月1回程度、定期的な面談を通して、子育てについての相談に応じる。
- ・お子さんの強み、有効な関わり方について助言を行う。
例 家庭でのスケジュールの提示について
家庭での遊びの提案



移行支援・地域支援・地域連携

- ・入園、就学、福祉サービスの利用形態についての変更等、お子さんの生活が変化するときにも、必要な支援について、相談・援助を行う。
- ・お子さんが併用する保育所・幼稚園・こども園との連携を行う。
(見学に伺い情報交換を行う、引継ぎ資料を作成しあげしする等)



職員の質の向上に資する取り組み

- ・同法人内の他事業所と合同での研修（月1回）
- ・事業所内での研修（月1回）
- ・職員それぞれの希望する研修への参加助成



主な行事

- ・個人懇談（5月頃）
- ・夏祭り（8月）
- ・みらい小学校（年長児：小学校疑似体験）
- ・冬イベント（12月）
- ・おでかけ活動（年2回程度）
公共交通機関の利用や店員さんとのやりとり練習
- ・座談会（年2回）

